

献 辞

藤井秀樹教授は、2021年3月1日に65歳の誕生日を迎えられ、同年3月31日をもって、本学を退職されることになりました。

先生は、1978年3月に京都大学経済学部経済学科を卒業後、同年4月に京都大学大学院経済学研究科に進学され、Aix-Marseille 大学（フランス）での研修（在外研究）を経て、1984年3月に博士後期課程を指導認定退学されました。1984年4月から近畿大学商経学部において専任講師および助教授を務められた後、1990年4月に京都大学経済学部にも助教授として着任され、1997年7月に京都大学から博士学位を授与されたことを受けて、1998年1月に経済学研究科教授に昇進されました。1999年9月から約1年間 Manchester 大学（イギリス）で客員教授として在外研究に従事されたほか、2004年4月には Paris-Dauphine 大学（フランス）で招聘研究者として Jacques Richard 教授らとの共同研究に携わるなど、国際的な領域でも研究活動を積極的に行ってこられました。

その間、先生は、市場・会計分析講座の財務会計関連科目担当教員として、経済学研究科・経済学部における教育・研究に尽力されました。学部演習では約300名の学生を育て、そのうち約30名が卒業後、公認会計士や税理士として活躍しています。大学院では指導教員（教官）として36名の研究指導に当たり、そのうち22名が現在、国内外の大学で教育・研究に従事しています。

先生の研究分野は、簿記、財務会計、国際会計、非営利組織会計、公会計等、多岐にわたっていますが、学界においてとくに高い評価を得たのは、財務会計の利益計算構造とシステム変化を理論分析的に解明した比較制度研究です。「一般に認められた会計原則」（GAAP）の本質を、経済主体の相互作用的行動の均衡点としての「制度」（institution）と見て、その動的な性質を明らかにした点に、ご研究の最も大きな特徴があります。先生の約40年にわたるご研究の成果は、単著3冊、編著書4冊、共著書28冊、論文約140本に、結実しています。

先生は、学内においては教育研究評議会評議員、理事補、図書館機構副機構長等を、学外では公認会計士試験委員、税理士試験委員、京都府公益認定等審議会会長等を、学界では日本会計研究学会理事・評議員・学会賞審査委員、国際会計研究学会理事、会計理論学会会長等を、それぞれ歴任されました。

京都大学経済学会は、以上に見るような先生の多年にわたるご功労およびご業績に対して敬意と感謝の念をお示しすべく、本号を記念号として編集いたしました。先生のご薫陶を受け各分野で活躍されている方々の労作を編んで、本記念号を先生に捧げることができますことは、私どものこの上ない喜びであります。

先生が、今後とも、ますますご健康で、学界のため、また広く社会のためにご活躍なされますことを心からお祈り申し上げます。

2021年1月15日

京都大学大学院経済学研究科長

江上 雅彦